

さとうさび畑こんさあと in 神大

「寺島夕紗子さんをお迎えして」

50年目の
記憶

曲目

ドヴォルザーク
グリグ
シベリウス
ラーラ
ホアキン・ニン
ドビュッシー
林光
寺島尚彦

わが母の教えたまひし歌
さみを愛す
逢い引きから戻った娘
グラナダ
鳥の歌
家なき子らのクリスマス
うた
さとうさび畑 / 雨よ降れ

他

出演

寺島夕紗子 (ソプラノ)
服部真由子 (ピアノ)

日時・場所

2017年 2月4日(土) 15時
神戸大学発達科学部キャンパス C棟ホール (C111)

入場無料 (整理番号配布のため、お問い合わせください)

問い合わせ先 misahta@kobe-u.ac.jp

出演者プロフィール

寺島夕紗子（てらしまゆさこ） ソプラノ

東京藝術大学及び同大学院修了。文化庁在外研修員としてスペインに留学。第23回フランス音楽コンクール第1位。第8回日仏音楽コンクール第2位他。全国で展開しているトークコンサートは好評を博している。NHK テレビ「そして歌は誕生した」、NHK ラジオ「名曲リサイタル」「わくわくラジオ」「いのちの対話」はじめ、日本全国のテレビ、ラジオ番組に出演。「第九」「メサイヤ」などのオーケストラ作品のソリストも多数務め、海外でもイギリスにはたびたび招かれて演奏。スペインでのリサイタル開催はドキュメントとしてテレマドリードで放映され話題をよび、同時にラジオやテレビコマーシャルにも出演している。2015年より2年続けて在マレーシア日本大使館に招かれ、大使公邸などでリサイタルを開催。父・寺島尚彦作「さとうきび畑」「緑陰」等3枚のCDをリリース。また「ざわわ さとうきび畑」寺島尚彦緑いろのエッセイ」の出版や琉球新報紙コラムの連載など、新聞、雑誌書籍への執筆活動も展開中。洗足学園音楽大学講師。

服部真由子（はっとりまゆこ） ピアノ

東京藝術大学附属音楽高校、同大学を経て同大学院修了。フランスへ留学。パリ・エコール・ノルマル音楽院首席卒業、演奏家資格取得。同音楽院室内楽科卒業。ローマンヴィル音楽院室内楽科ディプロム取得。文化庁在外研修員としてスペインに留学。故アリス・デ・ラロチャのもとマルシャル音楽院スペイン音楽マスターコース（3年）を特例の1年で修了。第5回 PTNA C級金賞、第1回A・ルーセル国際コンクール1位他受賞。これまで国内外でソロリサイタルやオーケストラと協演。またピアノ・デュオ・リサイタルやサロンコンサートも開催している。その他 NHK-FM への出演、室内楽、歌曲・合唱伴奏、録音、楽譜解説・校訂など幅広く演奏・音楽活動を行っている。洗足学園音楽大学講師。2012年にNARよりソロCD「赤ちゃんの家族-ヴィラ=ロボスピアノ作品集」をリリース。

「さとうきび畑」は沖縄戦の悲しみを歌った私の父の作品です。私が生まれる前に発表されたこの歌は、私の物心つく頃にはすでに多くの人に歌われていて、まるで知らないうちにおもちゃ箱の中に入れていたおもちゃのような存在でした。幼い私には「鉄の雨」の意味は分からなくても「父は死んでいった」という言葉がとても悲しかったのを覚えています。まさか自分が歌うようになるとは夢にも思っていなかったこの歌を、父子の縁でリクエストされるようになったのが20年ほど前。その当時、私の中にあつたのは〈照れ〉がたたく、〈抵抗〉が少し。けれどもその後ずっと歌い続けてきた今となっては、それらは別の意味の難しさになりました。

「この歌が歌われなくなる日が来ればいい」。父が生前よく口にしていた言葉を思い出します。「さとうきび畑」が発表されて50年を迎える今、この歌を歌い続ける人と聴きたいという人がまだたくさんいる今、その今を生きる私たちに「平和」というテーマは軽いのか重いのか…。

私は大田美佐子先生の後輩として、まだ「平和」の意味を考えてみることもなご思いもよらなかった幼い日々から大学まで、ずっと同じ学び舎で過ごしてきました。その美佐子先生からこのたび素晴らしいご縁をいただき、私たちと同じように戦争を知らない時代を生きる神大の皆さんと「さとうきび畑」を分かち合う機会をいただいたことに、心から感謝しております。

寺島夕紗子

学術 Weeks 企画に寄せて

秋に大阪のフェニックスホールで寺島夕紗子さんの《さとうきび畑の歌》を聴く機会があり、不覚にも涙がとめどなく流れた。戦後70年の8月5日、灼熱の広島で歩いて知った原爆供養塔のことが脳裏を過った。戦争など、もう過ぎ去った昔と感じていた自分に生々しい歴史の記憶の断片が語りかけてくるのだった。作曲者の寺島尚彦さんは、この曲の楽譜に「たんとんと、感情をおさえて」と記している。。どんな思いで作られたのか。。夕紗子さんの《さとうきび畑の歌》を聞いた年の暮れには、家族で沖縄本島の歌碑がある読谷村に飛んでいた。歌の力に突き動かされて。。歌に歴史が刻まれ、歴史に歌が刻まれる、忘れては思い出し、どこにいても帰ることのできる歌という大切な場所について、皆さんと感じて、考えたいと思う。

（大田）

関連シンポジウム「歌と文化的記憶 - 表現と社会」

11月19日（土）14時から17時30分 C101

第一部 ゲスト講演宮本直美（立命館大学大学院文学研究科教授）

橋本直人、谷正人、大田美佐子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

第二部 大学院生による研究発表（詳細は別プログラムで）

会場アクセス

【バスにて】

阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅より、神戸市バス36系統鶴甲団地行き乗車「神大発達科学部前」下車後すぐ

【徒歩にて】

阪急「六甲」駅より徒歩30分

